

ボーリング柱状図

調 査 名 都市基盤周船寺川（天降橋周辺）地質調査業務委託

[illegible]

事業・工事名

シート No

ボーリング名	No. 4		調査位置		福岡市西区田尻1丁目地内 (X=64494.349 Y=-69838.038)					北 緯		33° 34' 45"				
発 注 機 関	福岡市道路下水道局		建設部		河川課		調査期間		平成 23年 1月 11日 ~ 23年 1月 17日			東 経		130° 14' 51"		
調査業者名	西日本地研株式会社 電話 (092-942-7878)		照査技術者		野田 正 述		管理技術者		山本和浩 コ 鑑 定 者		山本和浩		ボーリング 責 任 者		里内作実	
孔 口 標 高	4.00m	角	180° 上	方	北 0° 270° 西	地盤勾配	水平0° 鉛直 90°	使用機種	試 錐 機	東邦地下工機 (株) D0-D型		ハンマー 落下用具	トンビ			
総掘進長		度	下 0°		向				180° 南	エンジン	ヤンマーディゼル (株) NS80		ポン プ	東邦地下工機 (株) BG-3型		

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色相	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位(m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験 深さ(m)	試験名 および結果	試験採取 番号	室内試験 (月日)	掘進
											深	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 / 貫入量						
													0	10					
(m)	(m)	(m)	(m)	図	分	調	度	度	事	(m)	10	20	30	(cm)		(m)			
1	2.85	1.15	1.15		埋土	暗褐			粘土混り砂質土状をなす 所々、小礫を混入 粘土分を多く混入	0.97	1.15	1	1	3	2				
2	2.00	0.85	2.00		粘土	暗灰			軟らかい		1.45	1	1	3	3				
3	1.00	1.00	3.00		砂混り粘土	暗灰			砂分を多く混入 軟らかい 下部に従い砂分多くなる		2.15	1	4	8	13				
4	0.65	0.35	3.35		砂	暗灰			細砂を主体		3.15	4	3	4	11				
5	-0.55	1.20	4.55		硬混り砂	暗灰			細砂を主体 径5~20mmの礫を混入 下部に連れ粗砂が多くなる		3.45	4	3	4	11				
6	-1.15	0.60	5.15		砂	暗緑灰			細、中砂を主体 含水量が多い		4.15	4	6	5	15				
7	-1.85	0.70	5.85		砂礫	灰			径5~30mmの礫を主体 マトリックスは粗砂		5.15	3	3	3	9				
8	-3.00	1.15	7.00		粘土	緑灰			半固結状をなす 下部に少量の砂分を含む		6.15	13	10	11	34				
9					砂礫	緑灰 / 黄褐			径5~30mmの礫を主体 礫は花崗岩礫、石英礫、片岩礫 粘土分を含む		7.15	5	6	5	16				
10	-6.65	3.65	10.65		粘土混り砂礫	暗褐 / 暗緑灰			径5~30mmの礫を主体 粘土分を多く混入する		8.15	6	6	9	21				
11	-9.60	2.95	13.60		砂質粘土	オリブ黄			半固結状をなす		9.15	4	5	4	13				
12	-10.15	0.55	14.15		粘土混り砂	オリブ黄			中砂を主体 粘土分を多く混入 下部に連れ粗砂が多くなる		10.15	13	16	12	41				
13	-10.95	0.80	14.95		粘土	オリブ黄			半固結状をなす		11.15	13	10	11	34				
14	-11.20	0.25	15.20		硬混り砂	黄褐			まさ土の一次堆積土状をなす 上部、半固結状をなす 下部は、若干軟らかくなる 下部に連れ少量の砂分を含む		12.15	19	24	7	50				
15	-11.60	0.40	15.60		硬混り砂	灰黄			細、中砂を主体 径5~20mmの礫を混入		13.15	7	9	7	23				
16	-12.90	1.30	16.90		花崗岩風化	灰黄 / 黄褐			強風化部		13.37	7	7	8	22				
17	-13.60	0.70	17.60		風化花崗岩	灰黄			風化作用が顕著で砂質土化する		14.15	7	7	8	22				
18					風化花崗岩	灰黄			岩芯部まで風化が進行する		14.45	9	12	12	33				
19					風化花崗岩	灰黄			指圧で容易に潰れる		15.15	10	12	12	34				
20	-19.00	5.40	23.00		弱風化部				軟岩D.C. IIにて柱状コアで採取 24.5m付近、礫状で未風化部を残存する		15.45	11	13	15	39				
21					軟岩D.C. IIにて柱状コアで採取 24.5m付近、礫状で未風化部を残存する				24.8m付近、礫状で未風化の石英脈を残存する 岩質は軟質である		16.15	16	17	17	50				
22	-22.00	3.00	26.00								17.15	14	18	18	50				
23											17.45	15	20	15	50				
24											18.15			4	24				
25											18.45								
26											19.15								
27											19.45								
											20.15								
											20.45								
											21.15								
											21.45								
											22.15								
											22.45								
											23.15								
											23.44								
											24.15								
											24.42								
											25.15								
											25.44								
											26.15								
											26.39								

- ・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があります、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
- ・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。